

風土記の丘の花だより²⁹⁶

今、そしてこれから見られる植物(2025年11月15日)

先日、田辺の虫友から「まだ、ツクツクボウシが鳴いてるぞ」と連絡がありました。風土記の丘のツクツクボウシ、私は10月8日を最後に聞いていませんが、こんなに寒くなったのに、田辺ではまだ頑張っているのがいるんだなあと感じるやら驚くやらでした。秋の深まりを感じます。風土記ではイロハカエデやハゼノキ、ヌルデなどが色づきつつあります。



イヌタデの花が咲いています。決して珍しい花ではありませんが群生するとききれいなものです。図鑑などにはよく「子どもは赤まんまと呼び、ままごとをして遊ぶ」などと書かれていますが、それももはや過去形でしょう。今どき、そんな遊びをしている子をとんと見かけません。本当はもっと、そんな自然遊びをしてもらいたいのですがね。「イヌ」は植物の名前によく使われますが「役に立たない」という意味です。ですから、これは食用のタデのようにピリッとせず、役に立たないタデという意味の名前です。



新池の西の木にミツバアケビが巻き付き、大きな実を付けています。名前のとおり葉は三枚一組で、周りにギザギザがあります。アケビの葉は五枚一組で、ギザギザがないので、で見分けは簡単です。アケビの花は白、ミツバアケビの花は濃い紫色で全く違いますが、実はそれほど変わりません。それも不思議ですね。実の中身は白くてぶよぶよで、甘いですが、ほとんどが種です。人それぞれでしょうが、それほどおいしいと（私は）思いません。



万葉植物園で紅色のサザンカが咲いています。サザンカの花は、もとは白色ですが、いろいろな園芸新種があり、花の色も様々です。園芸品種は不勉強ですが、図鑑(山溪の「樹に咲く花」②)を見てみると、この品種は「立寒椿」というものに似ているように思います。詳しい方がおられたら、ご指摘ください。唱歌に「さざんか さざんか 咲いた道 たき火だ たき火だ 落ち葉たき」という歌がありますが、そんな風景も古き良き日本の風景になってしまいましたね。

今なら消防署に叱られてしまうことでしょう。



小さな紫色の実が目につきます。ムラサキシキブの仲間の実です。左の写真がムラサキシキブ、右はよく似ていますがヤブムラサキの実です。ヤブムラサキの方は皮みtainなものが付いています。葉を触ると、ヤブムラサキの方が毛深くてフワフワした感じ です。皆さんがよくお庭に植えられるのは、コムラサキという名前で実が丸くかたまって付きます。松下